

# 九州ルーテル学院大学

## Teaching Portfolio

### 2020



所 属： 人文学科こども専攻保育コース

名 前： 三井 真紀

作成日：2020年10月16日

## 九州ルーテル学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

教員氏名：三井真紀

所属：人文学部人文学科こども専攻（保育コース）

### 1. はじめに

ルーテル学院に着任後、様々な大学改革や学内の学科等編成を経験しながら、常に保育・幼児教育の主要科目を担当していることに意義と責任を感じている。保育者養成大学の教員として、社会の「望まれる保育者像」をよりよく探求するために、自身の教育活動について振り返りたい。

### 2. 教育の責任

こども専攻保育コースに所属している。専任教員として、保育コース学生（全学年）を対象とした保育に関する主要科目を担当している。授業実施にあたっては、本学の教育の基本的な理念・カリキュラムに基づき、自身の教育理念が実現できるよう努力を重ねている。

#### 2.1. 授業科目の担当

2018年～2020年度の3年間は以下の表の科目を担当している。

科目名	開講年度時期	履修者数	備考
保育原理	2018～2020 前期	35	選択必修
保育者論	2018～2020 後期	35	選択必修
幼児教育課程論	2018～2020 後期	35	選択必修
幼児教育方法	2018～2020 後期	35	選択必修
幼児理解	2018～2020 前期	35	選択必修
保育内容（総論）	2018～2020 前期	35	選択必修
保育内容（表現Ⅰ）	2018～2020 前期	35	選択必修
乳児保育Ⅰ	2018～2020 前期	35	選択必修
フレッシュマンゼミ	2018～2020 前期	35	選択必修
チャイルドケアゼミ	2018～2020 後期	35	選択必修
保育実践演習	2018～2020 後期	35	選択必修
教職支援演習	2018～2020 後期	35	選択必修
特別研究	2018～2020 後期	6	卒業必修
卒業研究	2018～2020 後期	6	卒業必修

## ■ 主要担当科目

- ◇保育内容（総論）…1年次対象。日本の保育ガイドラインの全体を学ぶ。
- ◇保育原理…2年次対象。保育の目的・方法・内容・変遷等について総合的に学ぶ。
- ◇保育者論…倫理観、人権、保育者のライフワークなどについて考察し、学ぶ。

学部での教育以外の教育実践は以下のようなものがある。

- 出張講義…菊池女子高校、ルーテル学院高校、千原台高校などで出張講義を実施。
- 外部研修…熊本市子育て支援員研修における「子どもと生活」等を担当。

## 2.2. 教育組織運営

人文学科こども専攻保育コース長（2019年度より）…保育コース全体の意見とりまとめ。

## 3. 教育の理念

大学教員としての役割は、次世代の保育者を養成することである。役割を果たすための基本的な理念は、次の3点である。

### 3.1. 理念1 教育活動と研究活動の相互バランスのとれた学生指導

### 3.2. 理念2 教員としてのモデルの提示

### 3.3. 理念3 保育者養成大学（4年制）ならでの、知識・自信・責任のある学生排出

## 4. 教育の方法

教育理念との関係では以下の点を重視した教育方法を取っている。

### 4.1. 自身の専門性を生かした教授活動

### 4.2. 教員、保育者、社会人として、心身ともに健康な人生を送るための議論

### 4.3 各論の充実、バズセッション、卒業研究などの充実と課外活動のサポート

## 5. 教育改善のための努力

担当教科は、いずれも保育主要専門科目であり、過去の学びとはかけ離れた方法論、難解な単語や思想史などがあふれている。教授側として、それらの内容が、いかに実社会

とかかわりあっているのかを、身近なエピソードを駆使して毎回伝えている。同時に、机上での学びがすべて現場での「子どもの最善の利益」につながるものであることを、映像や相互の語りから学べるようなセッションを取り入れている。

### 5.1. 改善努力1 授業評価アンケートと授業改善報告書

経験カリキュラムを重視した学びを行う中で、学生によっては十分な体験や学習がされていない（提出課題の内容から評価）場合が見られた。学生の学びのプロセスをより丁寧を観察する（たとえば提出物の途中経過を確認するなど）方法を検討したい。

### 5.2. 改善努力2

主体的な学びを重視する授業の中で、「指示をほしい」学生がいることも事実であった。学生の特性によって、課題を個別に提示するなど工夫を重ねたい。

## 6. 教育の成果・評価

最新の授業評価において「授業内容の意義や必要性を十分に説明してくれた」3.93点（保育内容／4点満点）、「授業内容はあなたに役に立つものでしたか」3.97点（保育原理／4点満点）など高評価を受けている。また、すべての自由記述者から講義内容についてはポジティブな内容を受けている。

## 7. 今後の教育に関する課題と目標

保育の役割が多様化する中、保育者養成大学における教員の役割も多様化する。自身に課せられた役割を踏まえて、以下の2点を課題、目標として挙げる。

### 1) 保育コース全学生の学力の底上げ

生涯、学び続けられる保育者になるため、すべての学生に学びの基礎を築きたい。そのために、授業時間を駆使し、時には学会発表や研究の機会を提供しながら学習の機会を保障したい。より深く効果的な学びを実現するための、養成校としての方法論の開発も課題である。

### 2) 人権意識をもった保育現場の構築

学部生はもちろん、現職保育者に向け、保育現場の人権を意識した学びを進めたい。保育現場のステレオタイプ、保護者との連携、保育者不足、こどもの虐待問題などいずれも保育現場の人権問題にかかわっている。未来の健全な保育現場を構築するため、大学教員として学びの機会をとおして問題提起していくことを目指したい。

## 8. 参考資料

### (1) 担当科目シラバス

保育原理

保育者論

幼児教育課程論

幼児教育方法

幼児理解

保育内容（総論）

保育内容（表現Ⅰ）

乳児保育Ⅰ

フレッシュマンゼミ

チャイルドケアゼミ

保育実践演習

教職支援演習

特別研究

卒業研究

### (2) 授業評価アンケート結果

保育原理（2020）

保育内容（総論）（2020）

幼児理解（2020）

乳児保育Ⅰ（2020）